

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397501466		
法人名	㈱森津介護サービス		
事業所名	グループホーム森津 かめユニット		
所在地	愛知県弥富市森津9丁目14番地4		
自己評価作成日	平成24年11月2日	評価結果市町村受理日	平成25年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2375601466-00&PrefCd=23&VersionCd=022](http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2375601466-00&PrefCd=23&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成24年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の広がる長閑な景色に囲まれており、落ち着いて生活が送れる環境がある。広い芝生の中庭もあり、開放的で穏やかに生活をして頂けるよう努めている。また、隣接している畑では既設の野菜も育てており、収穫も楽しみの一つとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、周囲が良く見渡せる田園の中に立地しており、ホームの敷地内に、広い芝生と畑、花壇があり、利用者が毎日の生活の中で季節の野菜や花が楽しめる環境にある。さらに、利用者と職員が手入れした畑の芋の収穫時期には、毎年、近隣の幼稚園の園児が芋ほりに来ており、利用者が園児と触れ合う機会になっていることや、広い庭には、テーブルやベンチが設置されており、家族と一緒にバーベキューを楽しむ機会もつくっている。また、地域の祭りでは、ホームの敷地内に舞台を設置し、ボランティアによる伝統芸の披露を利用者と地域住民と一緒に鑑賞する機会が得られ、地域の方との交流につながっている。ホームでは、ホームの立地条件や設備等をを最大限に活かしながら、理念にある「利用者が笑顔で明るく元気よく」生活が送れるように、支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議等において理念を含むケアの方向性を伝えてはいるが、全職員が実践できておらず、業務の改善指導により実践に繋がりたい。	共通の運営方針を基本に、各ユニットで発案された基本理念は、玄関やタイムカードの脇に貼ってあり、職員がいつでも目に付くようになっている。また、面接時にも理念について話し、職員同士も声掛けしながら理念に基づくケアに心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶や、地域の祭りへの参加・運動会見学・近隣の幼稚園との交流を行っている。	芋ほりなどの季節の行事に近隣の幼稚園児・小学性・高校生などを招待し、利用者と触れ合う機会をつくっている。また、町内会に加入していることから、町内の行事にも参加し、地域の祭りでは、伝統芸の披露を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームに相談に来られる方もおられ、その際には、アドバイスや病院の紹介などを行っている。受身である為、今後積極的な働きかけが必要。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホームからの報告やご家族様からの要望や質問についてもその都度話し合っている。しかし、ご家族様からの発言は少なく、話しやすい雰囲気作りが今後の課題。	会議は定期的に行われており、ホームでの利用者の様子や行事予定を報告している。また、家族の参加数も多く、面会時に職員の言葉遣いが気になったとの意見があり、現場で改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の調整会議への参加。また、状況に応じて電話や直接伺い相談をしている。	市の事業所連絡会に参加し、現状の報告の他、年金相談等、必要に応じて相談している。また、当該ホームは平成26年6月に移転の予定があり、住民説明会などの手続き等の相談を行い、助言等を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的な身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合はご家族様に説明、同意して頂いてから行っている。	ホームでは、身体拘束防止マニュアルを作成し、職員に合わせた研修を行う事で、周知を心がけている。また、ホーム長と職員は、日々の申し送りの中で、身体拘束がないようケア内容について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉や態度での虐待は、スタッフ自身が虐待とっていない部分もあり、その都度注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解されていない職員も多々いるため、今後研修の機会が必要。現状対象となるご利用者様いないが、見学者等で対象となる方については、制度内容を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は時間をかけ契約書の読み合わせをきちんと行い、内容ごとに質問がないかお聞きしている。改定の際は、運営推進会議を通してきちんと説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場であったり、普段面会時などのご家族様との交流の中で意見や要望がないかうかがっている。	ホームでは、家族の面会時には必ず声を掛け、利用者の様子を伝えると共に、意見や要望を聞き出すように心掛けている。また、ホームでは、バーベキューや餅つき等、家族が交流する機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	以前は、個別面談を実施していたが、現状は出来ていない。リーダー会議や職員からの話には耳を傾け、改善に向けて努力を行っている。	職員は、毎日の申し送りやユニット会議で意見交換し、改善につなげている。また、法人代表は、年1回の個人面談以外でも、現場で職員一人ひとりに声を掛け、意見を聞き、運営に反映するように努めている。	代表も懸念されているが、現在、年1回に留まっている全体の会議を、各ホームとの連携等の充実や災害時、緊急時に備えて、会議の回数の増加を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や勤務態度等について、代表からの目線だけではなく、他スタッフ達からの目線も考慮している(職員アンケートの実施)また皆が働きやすいよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内はあるものの、なかなか参加できないのが現状。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設の豊田市の職員等との交流を行っている。また、市の調整会議や地域の事業所主催の研修に参加することで、地域の同業者との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の意見要望に対し傾聴し不安等取り除くように支援している。また、コミュニケーションを密にとることで、信頼関係形成に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係を築く上で困りごとや不安等を傾聴し安心して生活して頂けるようお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に事前面接を実施している。また、体験入所も必要に応じ行っている。出来る限り、ご本人様・ご家族様に合ったサービス提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会社の理念でもあります「ご利用者様と一緒に生活を楽しむ」ことを目標にケアの実践に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絶えず、ご家族様とのコミュニケーションをとり、その中で日々の変化などをお伝えし、認知的な事に関しては家族様にわかりやすく説明し、互いに協力出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の要望や会話の中などから馴染みの場所などに出掛けられるよう支援させて頂いている。	ホームには、家族の面会以外にも友人・知人の来訪があり、交流を継続するよう取り組んでいる。来訪が困難な方とは、手紙や電話等で関係が継続できるよう支援している。また、定期的に外泊される利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	環境面を整え孤立しないよう配慮させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際は、いつでも相談させて頂く旨説明させて頂いている。退去後もご家族様が来所されることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人様の希望やご家族様からの情報を元にニーズの把握に努めている。	ホームでは、入居時に、本人と家族から、思いや生い立ち等を聞き出し、それらの情報をアセスメントにとり入れ、職員間で共有している。また、利用者の日々の様子や気になる事を日報に細かく記入してニーズを把握し、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントにて生活史・生活サイクル等お聞きしている。入所後は、ご本人様やご家族様から、その都度お聞きし情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察に努め、バイタルやコミュニケーション等から体調や精神の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様からの意見を元に現状に即したケアプランの作成に努めている。また、入院を含めた状態変化時には見直しを行っている。	ホームでは、6か月から1年での見直しを行っている。ケアチェック表で計画に沿ったケアを提供しており、日々の記録がモニタリングになっているため、小さな変化にも気付く事ができ、迅速な計画の変更に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報、個別記録、ケアチェック表、気づく表の記入により文面にて情報共有できるようにし、ケアプランにも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況に応じ、訪問入浴・訪問看護等の利用支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園に出掛けたり小学生等の催しに招待を受け見学に出掛けたりする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様のの要望に応じて継続してかかりつけ医を受診して頂いている。また、歯科や老年科専門医の往診もある。	ホームでは、認知症の専門医の往診もあり、希望に合わせて受診しており、従来の薬剤を見直していく等の効果をあげている。また、入居前からのかかりつけ医への受診は、職員が同行している。また、歯科医の往診を受ける事も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携しているクリニックの看護師の訪問があり、その都度状況報告。また、24時間看護師と連絡可能であり、必要に応じ連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリー作成し医療機関に情報提供している。退院前には、MSWやご家族様や医師とお話しし状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所内で対応できることについて重度化時の対応指針を提示し説明している。重度化時には医師・ご家族様と話し合いを行い、支援を行っている。	ホームでは、入居時に看取りについて、家族の意思を確認している。また、終末期が予測される時は、医療行為についての限界もあり、医師も交えて入院等の判断を確認している。これまでも看取りの経験はある。	終末期介護は、今後も可能性のある事であり、職員研修等を繰り返す事で、職員の不安を解消し、終末期に対応できる体制を整える事に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるものの、訓練をしてはいない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。周囲が田畑に囲まれているため、協力を得るのは難しい。隣接の職員や、近隣の職員に応援を仰いで対応するよう訓練を行っている。	ホームの避難訓練は、年2回行われており、消防署の参加もあり、助言を得ており、夜間を想定した訓練も実施し、連絡網も作成している。また、今年度より、法人代表が地域の訓練に参加している。非常時の備蓄は3日分以上確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を大切に丁寧な対応を心掛けている。丁寧な言葉づかい・不快にさせない言葉等施設内に掲示し職員全員が常に念頭に置いている。	職員は、入社時に代表者から、利用者一人ひとりを尊重した接し方を心掛けるように指導を受けている。また、職員は、利用者と話する時は親しみやすい呼び名を呼ぶようになっているが、申し送り等、職員間では「様」で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての言葉について自己決定を促す言葉がけをし利用者様の決定を待ってから行動に移している。また、意思表示が困難な利用者様については表情等から読み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり事にとらわれず、ご本人様のニーズに応じられるよう工夫している。入床・離床にもご本人様のペースに配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意思も配慮した上で洋服を一緒に選択したり髪型を整え、身だしなみやおしゃれに努めている。訪問理美容やヘアメイクにより楽しむ機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある料理やホームで採れた野菜の提供をしている。職員・利用者様が同じ食事をし、一緒にテーブルを囲んでいる。準備や後片付けなど、出来る方には手伝っていただいている。	ホームでは、利用者と職員と一緒に食事をしており、時にホームの畑で採れた野菜を使ったメニューを盛り込んだり、希望に合わせての外出の機会もある。また、利用者の身体状態に合わせて、トロミ・刻み食等の対応を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表の記入により、水分不足等にならないよう配慮している。食事形態の工夫・好みの飲み物を提供したりするなどの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや介助が必要な方はブラッシングやガーゼでのふき取りにより口腔内清潔保持に努めている。食膳には嚥下体操を実施し、誤嚥予防している。また、歯科医師・歯科衛生士による口腔ケア・指導もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄リズムを把握し出来る限りトイレでの排泄をして頂けるよう支援している。また、極力おむつ類は必要以上使用しないよう努めている。	職員は、排泄チェック表を用いて間隔を把握し、トイレへの案内を行っており、日中はトイレでの排泄を目指すように支援を行っている。利用者の中には、入居してから紙おむつが不要になる等、改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事・寒天ゼリー・乳製品の提供をしている。また、体操や散歩を実施し、腸が活発に働くよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯については現状職員の都合で行われている部分はあるが、利用者様のご希望に応じ臨機応変に対応できるよう努めている。入浴を拒まれる方については、無理強いをせず柔軟な対応を心掛けている。	入浴は、基本週2回であるが、その人に応じた回数や、時間の希望に合わせた支援をしている。入浴を拒否される利用者には、担当を変える等の対応で支援している。ゆず湯やしょうぶ湯で季節を感じるよう取り組みを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズム・ご利用者様の体調に応じて休息を取って頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の増減・種類の変更等に気を配り常に変化に対応できるように、短期長期に渡り様子観察に努めている。また、薬剤師と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や得意にしている事を行える時間を作りコミュニケーションの場を提供している。イベントの企画も考え施設内外においても楽しめる機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物・喫茶店等の外出の誘いを職員からするようにしている。行事など可能な限り個別の希望に沿った外出支援に努めている。	ホームでは、日常的に天候に合わせてホーム周辺を散歩しており、個別での買い物や喫茶店に職員の支援で出掛ける機会もつくっている。また、花見等、季節を感じる外出や、ユニット毎で日帰り旅行にも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにてお金の管理をさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどの支援を行っている。電話もご希望があれば(ご家族様の了解のもと)その都度支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には金魚の水槽・フローには観葉植物や花を飾り、壁には季節感を感じて頂けるよ四季に応じた壁画の飾りを行っている。常に明るい状態を保ち、温度・湿度管理にも気を付けている。	ホームの共用空間には、利用者の作品や花が生けられてあり、季節を感じる事ができ、玄関ホールには芋ほりに来訪した小学生たちの礼状も掲示されている。また、金魚やメダカを飼育しており、利用者の癒しにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が寄り添ってくつろげるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様にもご協力を頂き出来る限り使い慣れたものを持ってきて頂くようお願いしている。また、清潔で安全に過ごして頂けるよう配慮し援助している。	居室には、ベッドも含めて各自使い慣れた家具の持ち込みがあり、落ち着いた生活が送れるような空間になっている。家族の写真も飾ったり、ベッドを日差しの良い窓際に配置するなど、本人の気に入った居室づくりに心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かりやすいよう、各場所ごとにトイレの表示、各居室の名札配置を行っている。また、居室にはのれんによりわかりやすくしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム森津

## 目標達成計画

作成日: 平成 25年 1月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	代表が年1回の会議参加なので、職員が運営に関して理解していない。	職員全体が運営に対しての理解をして、協力体制が出来るようになる。	一ヶ月に一回のユニット会議に代表が参加して、職員と意見交換などをしていく。	1年
2	12	職員が終末期介護に不安を抱えている。	終末期介護の知識と技術が向上するように勉強会や研修に参加していく。	医療連携の病院看護師により一ヶ月に一回の勉強会をしていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月